

命の環（続編）

大谷 祥（千葉市稲毛区）

平成二十四年度の小学校の田作りの締めくくりとして、炊飯実習を兼ねた感謝の会が開かれ、筆者も御招待頂きました。あすみが丘小学校では昨年十二月五日に、大椎小学校では今年二月二十七日、二十八日、三月一日に各組毎に開かれました。この内の二日間でお話の機会を頂き、その際に五年生のみなさんにお伝えしたことの一部を記します。

本日はお招き頂きまして誠にありがとうございました。今年も大きな怪我や事故なく、みなさんと田作りできました事を感謝致します。

今年、みなさんは四日間、お仕事をしてくださいました。田植え、草取り、稲刈り、脱穀調整です。それらの作業の説明の際、みなさんに「これは体験ではありません。仕事です。きちんとやらないと怪我をしたり、最悪の場合は死んでしまったりします。ですから説明を良く聞いて、注意事項を守ってください」とお伝えしました。今日、皆さんが召し上がったお米は、その仕事に対する報酬です。みなさんが大人になって仕事をする時も報酬があります。お金の場合が多いと思いますが、食べ物という直接の報酬は農業ならではの。

そして、その食べ物の貴重さはみなさんは良くお分かりだと思います。それぞれの作業は簡単ではなかったでしょう。あれだけの仕事をすると御飯がお茶碗一杯分、食べられるのです。

今、日本では食料の年間消費量が約8500万トンとなっていて、自給率はその内の39%くらいです。残りの61%くらいは輸入に頼っています。そしてそれらを合わせた内の約五分の一に当たる1800万トンは残念な事に捨てられています。

食べ物は様々な形で捨てられています。例えば飲食店で私達が食べ残したり、お店に並んでいる食品の消費期限が過ぎたり、買って来た食品が思いがけず腐ってしまったりした場合です。「ちりも積もれば山となる」で、積み積みもって1800万トンが捨てられているのです。このことをみなさんはどうお思いになりますか？ もしみなさんが育てたお米が捨てられたらどのように思いますか？

これは一人一人が意識して取り組まないと解決できない問題です。毎日の食事を残さず食べることが何より大事です。「いただきます」と「ごちそうさま」は命を頂くことに対する感謝である事をどうぞ忘れずにいてください。そしてその命を育ててくださった方達はもちろん、お日様や大地、全ての自然に対する感謝も忘れずにいてください。買って来た食べ物は消費期限前に、新鮮な状態できちんと頂くことを意識するようにしてください。

稲やたんぼの生き物達の生長を見守ってきた皆さんなら、命と食べ物の大切さを忘れずに生きていかれることと思います。



これにて平成二十四年度の田作り授業を終わります。みなさん、一年間誠に疲れ様でございました。どうもありがとうございました。YPPの活動はこれからも続けていきますので、いつでも遊びにいらして下さいね。

(谷津田だより2013年2月号掲載記事の続編になります)

谷津田いきもの図鑑 No. 56 カワセミ

野鳥の中でとりわけ人気があるのがカワセミです。「溪流の宝石」と呼ばれるように川や池の近くで暮らしているイメージがありますが、下大和田や小山の谷津でもほぼ一年を通して見ることができ、田んぼやその脇の水路で餌を探している姿を見かけることがあります。

カワセミというと何と言っても鮮やかな色が特徴です。頭と翼の光り輝く緑色と背中のコバルトブルーは遠目にもよく目立ち、矢のようなスピードで飛んでいてもその色がわかるほどです。目の下と胸からお腹にかけてのオレンジ色もなかなかおしゃれです。目立ちませんが足は鮮やかな赤色です。メスでは下側のくちばしが赤く、ここがオスメスを見分ける決め手となっています。

カワセミは水路沿いに低いところを直線的に飛びます。その時に「チーッ」という鋭い大きな声を出します。この鳴き声を覚えると田んぼで作業をしているもカワセミがいることに気づくことができます。米づくりに毎年来ていてもカワセミを見たことがない、という方が多いと思いますが、ぜひこの鳴き声を覚えてください。そうすると一日に何度か田んぼのすぐそばをカワセミが行き来していることに気がつくことでしょう。意外にもカワセミは田んぼで珍しい鳥ではないのです。

カワセミが大きな魚をつかまえて止まり木に打ち付けてから食べるシーンがテレビで時折紹介されますが、谷津ではそれほど大きな魚がいないので、ドジョウやタモロコなど小型の魚を食べています。時にはメダカやオタマジャクシ、カエルを捕まえることもあるようです。小さい分、たくさん捕まえないといけないので、ちょっと大変かもしれませんね。カワセミは高速で羽ばたいて上空の一カ所に停止する「停空飛行(ホバリング)」をして、魚を狙うこともよく知られていますが、谷津では水際の草や杭に止まって魚を探すことが多いようです。田んぼは水深が浅いのでダイビングするのはちょっと大変かもしれませんね。

卵を産んで子育てをするのは崖に水平に開けた穴の中です。横に50センチから1メートルの長さの穴を親が開けるといからすごいものです。谷津では斜面林の傾斜が急になっているところに稀に土が露出した崖があり、そうした場所で営巣しているようです。人が畦を作る時に必要な土嚢(どろう)に入れる山砂を取るために斜面を削った場所なども使っているようです。

春先から初夏にかけての繁殖期はカワセミが特に活発に活動する季節です。チーッという鳴き声が聞けたり、飛んでいる姿、うまくすると水にダイビングして餌を探るシーンを目撃したりするチャンスです。ぜひ、谷津に来て探してみてください。

(高山邦明)



田んぼ脇の杭で羽を休めるカワセミ (撮影：網代春男)



里山たんけんレポート

第158回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2013年3月3日(日) 薄曇り

厳しかった寒さも、春一番が来て暖かい日が続きました。田んぼを覗いたところニホンアカガエルの新しい卵塊がたくさんありました。今日は卵塊のカウントを主体に行うこととしました。2月16日のYPPでカウントしたものは全部孵化していたので孵化していないもの数えました。スタート時に林縁でコゲラがスギの小枝を盛んにつついていました。近くでもう1羽木をつつく音がしていました。カワラヒワ・シジュウカラの声もしていました。卵塊はYPP田から数えはじめました。予想以上の数です。2月16日以降159個それ以前の15個と合わせると174個になりました。大塚田は267個、花澤田(手前の赤芽柳田)239個、花澤田(広場下)77個、小池さん脇田、43個、合計800個と言う結果でした。2011年848個、2012年386個と激減、原因が判らず心配しましたが、ほゞ回復して一安心です。まだ、産卵が終わっていないと思われるお腹が大きいお母さんガエルにも出会いました。メダカ、オオタニシの姿もありました。葦原からたくさんのカラ類の混群が飛び出したのを見ました。ジョウビタキのこえが聞こえていましたが冬鳥とはそろそろお別れです。道端や土手には、セイヨウタンポポ、オオイヌノフグリ、ナズナ、ヒメオドリコソウ、オランダミミナグサ、コハコベ、ミチタネツケバナ、が、田んぼにはタネツケバナが咲いていました。

たくさんのニホンアカガエルの卵塊が確認できて豊かな気持ちになった観察会でした。

(参加者 大人6名; 報告: 網代春男)

第144回 下大和田 YPP「味わおう! 春の野草」

2013年3月17日(日) 晴れ

3月恒例の野草を食べる会を今年も開催しました。最初にみんなで谷津を散策して野草を探しました。日当たりのよいところにはヨモギやツクシ、カラスノエンドウなど、食べ頃の野草が顔を出しています。ノビル抜きはどれくらいの大さの“玉”が付いているのかわからないので、くじ引き気分みんな結構はまってしまいます。タラノメに負けない味覚のニワトコはちょっと芽の出方が遅い様子でしたが、みんなが食べる分は採れました。ミツバやフキノトウなども採って広場に戻り、天ぷらや汁物にいただきました。春の味覚にはちょっと苦みがあるのですが、小さな子どもたちも「おいしい〜!」と喜んで食べていました。でも、食べ過ぎるとお腹をこわすので要注意ですね。

お腹いっぱい食べて、子どもたちは谷津の探検もして、大満足の日でした。

(参加者: 大人24名、高校生8名、小学生7名、幼児8名、 報告: 高山邦明)



春の谷津をいっぱい楽しんで記念撮影(撮影: 田中正彦)

第90回 小山町 YPP「もちつき」

2013年3月23日(土) くもり

朝、シュレーゲルアオガエルの合唱が響き渡る谷津で昨年収穫したお米を使ってもちつきをしました。お米が蒸し上がってくるとかまどにかけたせいろからいい香りが漂ってきます。ホカホカのモチ米を臼に入れてこねてから、みんなでペタン、ペタン、かけ声に合わせて大人から小さな子どもまで全員が交替でつきました。きなこやあんこに辛み餅、お雑煮、そしてふつうの白米のおもちの他に、玄米入り、春の香りのヨモギ入りなど様々な味で楽しみました。自分たちで収穫したお米だけに味わいもひとしおです。3臼6升のお米をついたのでお土産のおもちもできて、みんな笑顔でいっぱいでした。

(参加者: 大人15人、小中学生6名、幼児2名、 報告: 高山邦明)



お腹いっぱいみんな笑顔

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 3月23日 朝のひざしに誘われてシュレーゲルアオガエル合唱（高山）。
4月1日 シュレーゲルアオガエルのど自慢大会開始（金谷）。
4月4日 苗代作り中に蛙の合唱がぴたっと止まり、その少し後に千葉県東方沖地震発生（13:42、マグニチュード5.3、茨城と千葉で最大深度四）（金谷）、田んぼの畦で羽を乾かしているシオヤトンボを見つけた（齊藤）。

下大和田

- 3月5日 ウグイスの初囀りを聞いた（網代）。
3月19日 アメンボを今春初確認（金谷）。
3月26日 先週までなかったニホンアカガエルの卵塊を確認。アズマヒキガエルの卵も五、六本確認。コブシ満開（金谷）。早春の蝶、ツマキチョウが舞っていた。コブシ、ヤマザクラが谷津を彩っている（網代）。
4月2日 アズマヒキガエルのおたまじゃくしさんが孵化。山桜開花（金谷）。
4月4日 シオヤトンボが羽化を始めた。フデリンドウ、アマナなど春の花が一斉に咲いていた（網代）。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先（いずれも）：ちば環境情報センター（TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/）

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼下大和田 YPP 第146回「田起こしとくろ塗り」(兼、第3回米づくり講座)

田植えの前に田起こしをし、畦に泥を塗る“畦（くろ）ぬり”をします。さわやかな新緑の谷津で気持ちのいい汗をながしませんか？小さなお子さんでも参加できますので、みなさんでいらっしゃってください。

- 日時：2013年5月11日（土）10～14時 *いずれも小雨決行
場所：千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）
集合：中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00（JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円）
持ち物：弁当、飲み物、長靴（田んぼでの作業なので長めがいいです）、帽子、軍手、敷物。
参加費：ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料
主催：ちば環境情報センター 共催：ちば・谷津田フォーラム

▼第160回 下大和田5月の谷津田観察会とごみ拾い

トンボの先生互井賢二さんをお迎えしてヤゴ・トンボを中心の観察会を行います。

- 日時：2013年5月5日（日）10～12時 *小雨決行
場所：千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）
集合：中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00（下大和田 YPP に同じ）
持ち物：筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など
参加費：100円（小学生以上、資料代など）
主催：ちば・谷津田フォーラム 共催：ちば環境情報センター

▼第91回 小山町 YPP「苗代づくり」

いよいよ今年の米づくりのスタート。最初の一步は田んぼに苗代を作って種もみをまきます。

- 日時：2013年4月21日（日）10:00～12:30、小雨決行
場所：千葉市緑区小山町 リンドウ広場（ご連絡いただければ地図をお送りします）
持ち物：飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、もしあれば双眼鏡。
参加費：100円（小学生以上、資料代など）
主催：ちば環境情報センター

編集後記 田んぼではアカガエルに加えてヒキガエルのオタマジャクシが泳ぎ始めました。春のトンボ、シオヤトンボも姿を現し、生きものたちの息吹でいっぱいです。田んぼの畦は草花で彩られ、ウグイスやメジロのさえずりが聞こえてきます。タネツケバナを口に入れると少し苦みのある味わいが広がります。五感をフルに使うとますます楽しめる季節です。
(高山 邦明)